

2013年3月28日

株式会社千葉銀行

株式会社日立製作所

## 千葉銀行、日立がクラウドで提供する ATMジャーナル集中管理サービスを導入し稼働を開始

株式会社千葉銀行(取締役頭取:佐久間 英利/以下、千葉銀行)は、このたび、株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)がクラウド<sup>(\*)1</sup>で提供する ATM ジャーナル集中管理サービスを導入し、2013年4月1日から稼働を開始します。

\*1 本サービスは、日立クラウドソリューション「Harmonious Cloud」(ハーモニアス・クラウド)のラインアップである ATM クラウドサービスのメニューのひとつです

ATM ジャーナルとは、ATM 内部にある ATM の取引内容を記録して保存するものです。今回、千葉銀行は、電子化した ATM のジャーナルデータを取引完了の都度、リアルタイムに収集し Harmonious Cloud センタ(日立のクラウドサービス提供の拠点)で集中管理する本サービスを導入します。

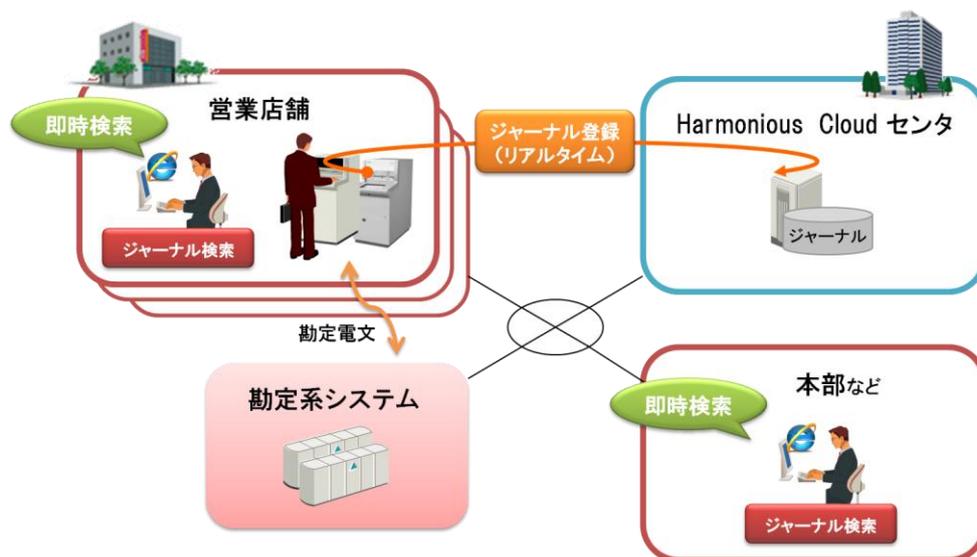
これにより、千葉銀行の ATM 約 1,250 台において紙ジャーナル(ロール状の記録紙)を廃止できるため、用紙の購入、交換、管理・搬送、廃棄といった ATM ジャーナル運用コストの大幅削減を実現するとともに、年間約 38 トン(A4 用紙換算で約 1,000 万枚)の紙使用をはじめとした環境負荷を、CO<sub>2</sub> 換算で約 48 トン<sup>(\*)2</sup>抑制(従来比、約 88%削減)することが可能となります。また、本部や各営業店などから最新のジャーナルデータをリアルタイムに検索・照会が可能のため、データ検索時間の短縮といった業務負荷の軽減、およびデータ管理・保管に関わる情報漏えいリスク低減により、ATM 運用業務の合理化を実現します。さらに、勘定系センタとは別地域にジャーナルデータを保管するため、勘定系センタ被災時の取引データのバックアップデータとしての活用も期待できます。

\*2 杉の木約 3400 本が1年で吸収する CO<sub>2</sub> に相当

千葉銀行は、第 11 次中期経営計画「フロンティア 70」において 4 つの経営課題を掲げており、今回のサービス導入は、このうちの 1 つ「経営管理態勢の高度化」における重要な施策の一つです。ATM 運用コストの削減と業務負荷の軽減により、業務の生産性向上とローコストオペレーションの徹底を実践します。今後も、千葉銀行グループ全役職員が一丸となり、お客さま第一主義のもと、地域のお客さまのご期待に応えうる創造力に溢れた「リテールトップバンク」をめざして各種施策に取り組んでいきます。

また日立は、今後も ATM のさらなる利用価値向上に向け、ATM 運用の基本サービスに加え、金融機関ならびに ATM 利用者の利便性向上に寄与する新サービスの提供を順次拡大していきます。

## ■ サービス提供イメージ



## ■ 株式会社千葉銀行ホームページ

<http://www.chibabank.co.jp/>

## ■ 株式会社日立製作所ホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/>

## ■ 日立クラウドソリューション「Harmonious Cloud」について

<http://www.hitachi.co.jp/cloud/>

## ■ 他社所有商標に関する表示

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

## ■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社日立製作所 情報・通信システム社 金融システム営業統括本部 [担当:小清水]

〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 1 号

お問い合わせ先: <http://www.hitachi.co.jp/finance-inq/>

以上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---